

一級河川淀川水系 淀川左岸ブロック河川整備計画(変更原案)の概要

平成25年11月11日(月)
平成25年度 第7回
大阪府河川整備審議会

資料 3-1

流域の概要と河川の特徴

○天野川

【下流】

- ・北川合流点付近より下流区間は築堤となっており、川幅は約50m・河床勾配は1/620~1/820程度で、ブロック積護岸の複断面形状である。
- ・大部分が市街化した平野部を貫流して、淀川に合流している。
- ・京阪枚方市駅と隣接することもあり、枚方市の中心的な市街地となっている。



【中流】

- ・大部分が山付区間となっており、一部の水衝部に石積みやブロック積護岸で整備され、小規模な瀬がところどころ見られる。
- ・山間部を蛇行しながら流下し、岩の露出した溪流景観。
- ・磐船峡には、2001年に完成した最大径12mトンネル放水路がある。

【上流】

- ・掘込区間となっており、川幅は約7m 河床勾配は1/130程度で、ブロック積護岸で整備されている。
- ・上流域は緩やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂と礫が主体的。
- ・生駒山地を遠景とした田園風景の中を緩やかに蛇行。



○穂谷川

【下流】

- ・築堤区間が多く、川幅は約20~30m 河床勾配は1/250~1/340程度。
- ・大部分が市街化した平野部を貫流し、淀川に合流。
- ・緩やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的。
- ・沿川は自然巡回路が整備されており、憩いの空間として利用。
- ・緩傾斜の護岸は緑が復元し、周辺の自然環境や田園風景にけ込んだ空間。

【中流】

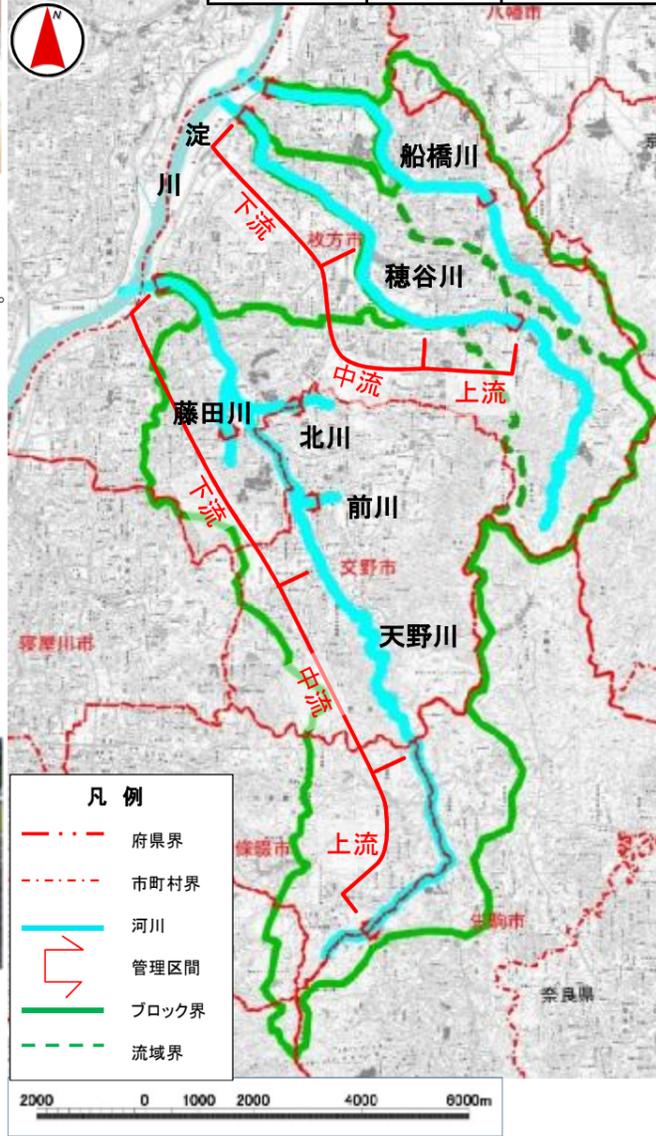
- ・大部分が築堤区間であり、川幅は約20m 河床勾配は1/220程度。
- ・堤防沿いは枚方市の「穂谷川自然巡回路」に指定されており、山田池公園周辺など、枚方市とともに、桜並木を整備。

【上流】

- ・築堤・掘込区間が混在し、川幅は約16m 河床勾配は1/200程度。
- ・穏やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的。
- ・周辺の自然風景にけ込んだ連続性のある水辺空間。



水系名	流域面積 (km ²)	指定区間延長 (km)
天野川	51.3	14.9
・前川	4.5	0.7
・北川	7.4	1.3
・藤田川	2.7	1.0
穂谷川	14.4	7.8
船橋川	8.7	5.2



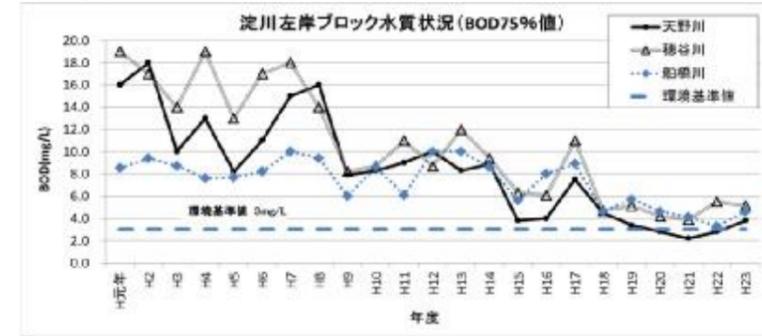
○船橋川

- ・大部分が市街化した平野部を貫流し淀川に合流。
- ・国道1号より下流は築堤、上流は掘込区間となる。
- ・川幅は、約20m~50mで河床勾配は1/350~1/180程度。
- ・水深は浅く穏やかな流れであり、瀬は見られない。河床材料は砂が主体的。
- ・最下流部を除き、自然巡回路が整備されており、憩いの空間として親しまれている。
- ・中、上流部には田畑や集合住宅が連なり、ブロック張護岸となっている。

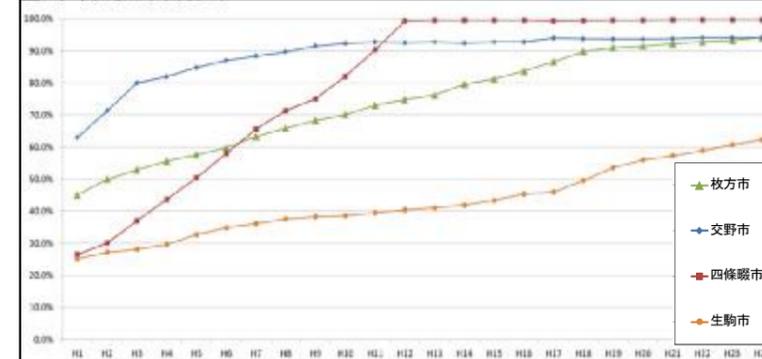


河川環境(水質)

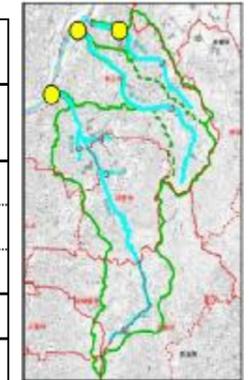
●水質



●下水道普及率



水系名	流域内市
天野川	枚方市、交野市、四條畷市、生駒市
・前川	交野市
・北川	枚方市
・藤田川	枚方市
穂谷川	枚方市
船橋川	枚方市



※普及率=整備人口/行政人口

※ブロック内には上記4市の他、東大阪市、大東市が含まれるが、天野川の最上流の限定された山地区域であり、整理対象外としている

〔現状・課題〕

- 3河川とも、環境基準(B類型 BOD3mg/L)が指定されている。
- 近年、3河川とも水質は改善傾向にあるものの、環境基準(B類型 BOD3mg/L)は満足していない。
- 下水道普及率は、平成23年度末現在の下水道普及率は、枚方市94.2%、交野市94.1%、四條畷市99.6%、生駒市62.3%となっており、普及率の上昇とともに、河川の水質改善傾向が見られる。

〔実施内容〕

- 流域市町による下水道整備・接続の促進など、関係機関や地域住民と連携して、未処理雑排水など水質負荷の流入を削減するための取り組みを進める。

河川環境(生態系)

●魚類

〔現状・課題〕

●魚類

- ・全川を通じて、府域で広く見られる魚が確認されている。
- ・全川とも、比較的的自然環境が残った川に見られる魚が確認されている。
- ・天野川下流に位置する新天野川橋下流でアユの遡上が確認されている。

●底生植物

- ・全川を通じて、府域で広く見られる底生植物が確認されている。
- ・天野川、穂谷川では、カワニナ、ゲンジボタルをはじめ、大阪府RDB記載種が多く見られる。
- ・全川とも、外来種の出現が確認されている

種数	天野川			穂谷川			船橋川
	下流	中流	上流	下流	中流	上流	
種数	14(9) ¹⁾	5(12) ¹⁾	8(7) ¹⁾	7(8) ¹⁾	3(4) ¹⁾	2(4) ¹⁾	8(9) ¹⁾
大阪府RDB記載種	ドンコ			ドンコ			タモロコ・メダカ
	タモロコ・カマツカ・ドジョウ・メダカ	カワムツ	タモロコ・カマツカ・ドジョウ・メダカ	タモロコ・ドジョウ	メダカ	ドジョウ・ドンコ	
その他主な種	オイカワ・モツゴ・ヌマムツ			オイカワ・モツゴ・コイ・ギンブナ			モツゴ・ギンブナ・タイリクバラタナゴ・タウナギ
	コイ						
	ニゴイ・コウライニゴイ・ギンブナ・アユ・ナマス・ブルーギル						

●底生生物

種数	天野川			穂谷川			船橋川
	下流	中流	上流	下流	中流	上流	
種数	48(27) ¹⁾	61(20) ¹⁾	46(21) ¹⁾	38(9) ¹⁾	34(15) ¹⁾	49(18) ¹⁾	45(15) ¹⁾
大阪府RDB記載種	ヒラモノアラガイ	ゲンジボタル	カワニナ、チリメンカワニナ、ヒラモノアラガイ			カワニナ、ゲンジボタル	
外来種	アメリカナミウスミシ			アメリカザリガニ			アメリカザリガニ、アメリカンノウズムシ、アメリカンカザリガニ、サカマキガイ、アメリカナミウスミシ、フロリダマミズコエビ
	アメリカナミウスミシ、アメリカンカザリガニ、サカマキガイ、フロリダマミズコエビ		アメリカザリガニ、サカマキガイ		サカマキガイ		
			アメリカザリガニ、サカマキガイ	アメリカナミウスミシ、アメリカナミウスミシ		アメリカナミウスミシ、フロリダマミズコエビ	

河川環境（利水）

●水利用

- ・流域内では河川水は、農業用水として利用されている。
- ・穂谷川では、中上流域にて慣行水利による多数の取水。

●流況

- ・穂谷川、船橋川において、灌漑期に瀬切れしている箇所が見られる。

●縦断的な連続性

- ・穂谷川、船橋川⇒魚道が整備されている落差工が多少見られるものの、高低差の大きい落差工も多く、水生生物の移動が困難な状況。
- ・天野川⇒アユの遡上が確認され、魚道が整備されている落差工は見られるものの、高低差の大きい落差工も残る。

河川環境（水利用・生態系）からみた課題・目標・実施内容

〔課題〕

- 堰や落差工による縦断的な不連続性が存在し、回遊性の魚類にとって、生息に適さない。

- 穂谷川、船橋川において、灌漑期に瀬切れが見られる。

〔目標・実施内容〕

- 天野川⇒堰や落差工による縦断的な不連続性を解消し、回遊性の魚類の生息に配慮する。

- 穂谷川、船橋川⇒現状の自然環境の維持、回復を図る。流水の正常な機能の維持に努める。

穂谷川



天野川(魚道)



河川利用（空間利用・住民ニーズ）

〔現状〕

【天野川】

- ・府民の森・ほしだ園地の他、川沿いにある交流拠点と連携した水辺プラザ等が水辺空間として利用。
- ・3河川の内、市民団体の活動が多く、親水施設が整備。

【穂谷川】

- ・中下流部において、川沿いに自然巡回路が整備。
- ・穂谷川中流部には山田池公園があり、豊かな自然環境。

【船橋川】

- ・中流部において、川沿いに自然巡回路が整備されている。

〔課題〕

- 天野川をはじめ数多くある市民団体の維持・発展。
- 穂谷川については、河川改修箇所における周辺環境との調和。

〔目標〕

- 河川利用の促進による環境意識の啓発を図る。
- 周辺環境との調和、利用状況を考慮した河川整備。

〔実施内容〕

- 市民団体等との一層の連携による河川利用活動、維持管理の促進。

- 穂谷川については、市などの関係機関と調整し、自然巡回路や山田池公園などのレクリエーション施設、自然環境と調和した整備を進める。

河川名	流域面積 (km ²)	流量 (m ³ /s) 【平均】	比流量 (m ³ /s/km ²)	観測年
穂谷川	14.5	0.09~1.00 【0.488】	0.03	H19.9.17~ H19.12.11
天野川	46.6	0.37~0.96 【0.564】	0.01	H17.7.25~ H18.1.18
船橋川	8.7	0.0~1.32 【0.426】	0.05	H21.8.25~ H22.12.22



治水（河道改修）

〔現状・課題〕

- 淀川左岸ブロックにおいては、穂谷川及び前川においてそれぞれ改修が必要。
(図中の赤囲い部)。

- 穂谷川の河道改修については、隣接地に山田池公園や自然巡回路があることから、改修時に周辺環境・景観への配慮が求められる。

- 前川については、河床掘削により護岸高が高くなり、川との隔たりができる。

〔目標・実施内容〕

- 穂谷川：
 - ・景観に配慮した護岸材料を選定する。
 - ・山田池公園らレクリエーション施設、自然環境と調和した景観整備

- 前川：
 - ・景観に配慮した護岸材料を選定する
 - ・周辺の住宅街との調和を図り河床に変化をもった景観整備



現況写真(穂谷川)



現況写真(前川)

河川の維持管理

〔現状・課題〕

- 護岸の設置後30年以上が経過し、老朽化が進んでおり、出水の際に護岸が損傷するおそれが高まっている。(船橋川では改修開始より50年を経過)

- 局所的な洗掘による、護岸崩壊のおそれ。

〔目標・実施内容〕

- 老朽化護岸は、河川の特長や施設の劣化状況を踏まえつつ、計画的な維持管理を実施して災害の発生を未然に防いでいく。

- 人命を守ることを最優先に、施設の損傷状況にあわせ、地先の危険度や土地利用状況などを考慮し、危険度の高いところから計画的に実施。あわせて箇所ごとの原因分析を行う。

平成25年11月11日(月)に配布した資料に誤りがありましたので、修正したものを掲載しております

資料番号	修正箇所	修正前	修正後
資料 3- 1	表面	・磐船峡には、 <u>1997</u> 年に完成した最大径12mトンネル放水路がある。	・磐船峡には、 <u>2001</u> 年に完成した最大径12mトンネル放水路がある。